

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月15日

事業所名 支援センターパレット

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3			音が反響しやすく聴覚過敏の方への配慮が必要。遮音などできないか業者と相談。
	2 職員の配置数は適切である	2	3	2		利用者介助で女性職員の増員が必要。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			廊下に手すり設置。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2		休校や分散登校が多く、業務振り返りの機会が少なかった。	業務改善MTGを設ける。PDCAサイクルのシステム化が必要。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				アンケートに加え、適宜個別で意見を聴き、改善につなげます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1			ホームページでの公開を継続します。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1	外部講師を招いて評価を受けている。	外部評価制度の検討
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			自主研修及び外部講師を招き実施。	リモート参加などで研修機会を確保する。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			計画相談と連携し、ニーズ整理している。	支援者全員でアセスメント、モニタリング力の向上を目指す。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		えいぶる使用を試みているが不十分	アセスメントシートを日々アップデートできるよう努める。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			毎月立案MTGを行っている。	立案MTGを継続
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			屋内でも運動量を確保する工夫。	各利用者の発達状況及びニーズに沿ったプログラムの開発を行う。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2		長期休暇時に学習タイムを設けている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	2			個別課題とグループワークが連動された活動を設定する。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			業務日誌と受入簿で児童の状態をチェック	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			家族からの伝達事項、支援の振り返りをしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			支援記録をもとにモニタリングで検証	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	3			全職員が参加できるようにする。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	2		年1回では不十分	定期的に読み合わせを行い、業務振り返りをする。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	6	1		主に児発管が参 加している。	今後は必要に応じ、児発管以外の支援者も 参加できるようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	6	1			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	6	1			医ケア児の受入体制整備を検討する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	6	1			児発管だけでなく、他の支援者も共有してい く。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	7				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	3	3	1		連携の機会を設けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	3	外部との交流を 持てなかった。	コロナの状況を注視しながら、近隣学童クラ ブとの交流会を企画する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	2	4	1	管理者が参加し ている。	職員への活動報告、周知を行う。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	6	1		連絡帳、送迎時 などで共有してい る。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5	1	1	外部講師を招き 研修を開催した。	実際に支援が行えるようにする。	
保護者への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	5		2	利用契約時に説 明を行っている。	計画後も定期的に説明が必要
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	4	2	1		必要な助言と支援を行えるよう個々の支援 者のスキルアップを図ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	2	4	1		感染対策をしながら保護者会を実施する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	6		1		迅速丁寧に対応できる体制を整えていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	6		1	毎月パレットだ よりを発行してい る。	全職員で周知していく。
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	2		コロナ禍の中でも工夫して行う必要がある。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	1		中途採用職員へも周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	4	1	今年度は機会が少なかった。	自主訓練の機会を増やす。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		1	年1回研修を実施。	中途採用職員にも研修を実施する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	1		危険行為の回避でやむを得ず行動を制限する場合の支援方法も具体的に協議していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				